

真夏の太陽が燃えさかるようです。多くの生命もその盛んな営みを謳歌しているようにもみえます。よく私たちの自然、四季の美しさを「雪月花」などと言いますが、これは冬、秋、春を愛でており、夏の代表は入っていません。夏が入ったのには「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえて冷（すず）しかりけり（道元）」、「形見とて何か残さん春は花山ほととぎす秋はもみじ葉（良寛）」をみることができ、往事は夏の季語ほととぎすがよく詠まれた感があります。今日ほととぎすに親しむ人はそう多くはないのではと思います。私なども雀、鳩、カラスくらいは姿、鳴き声で分かりますし、春から夏には庭、あるいは近くの森で鶯の声を聞き当てることも可能です。しかし、ほととぎすはその特徴的と言われる鳴き声を聴き、確認すること、その姿を視認することなどでできません。その機会を自ら放棄している可能性もありますが、ほとんどないように思っています。ほととぎすは基本的には山中のトリで現代の都会で見、聞きするのは難しいのかもしれませんが。「ほととぎす平安城を筋違に（蕪村）」もあります…。なお、冒頭の2編は3月号の編集後記にも書きました。今回は出典を記載し、あわせて川端康成のノーベル賞受賞記念講演でくり返し引用されていることを記しておきます。

耳鼻科皮膚科内科と並べればどうでしょう。花ほととぎす雪。先日耳鼻科の友人、開業医に「皮膚科は今がかき入れ時ですね、耳鼻科は春先ですけどね」と言われました。梅雨時から暑い時期は確かに皮膚科の季節ですが、秋は鬼門で「柿の実が赤くなる頃皮膚科医は青くなる」とも言われたようです。

夏は海水浴、高校野球や七夕、夏祭り、あるいは盆会などが新旧取り混ぜての風物詩でしょうか。かき氷、スイカ、ウナギ、はも等も食いしん坊には夏でこそです。長期休暇も夏ですが、社会人、開業医にはせいぜい1週間が限度です。それも、お盆休みを兼ねてでしょう。どこか別天地のような別荘でのんびり過ごす夢をみるのみです。

皮膚科の夏は感染症をはじめとして、外因性の皮膚疾患で賑わいます。白癬、伝染性膿痂疹、伝染性軟属腫、虫刺性皮膚炎などなど。時には小さな医院が小さい子の大きな泣き声で阿鼻叫喚を呈します。さて、今月号の特集は悪性上皮系腫瘍です。季節と関連して発症するものではありませんし、受診時期にも特徴はないように思います。フロントラインで頻繁に遭遇するわけでもありませんが、患者さんにとっては生命、社会生活に大きな影響を及ぼしうる皮膚疾患です。基底細胞癌は比較的生物学的態度がよく、早期に診断すれば負担の少ない手術等で予後良好に過ごせます。第一線の皮膚科医の役割が重要で、いつも眼を光らせる必要があります。有棘細胞癌の発生頻度は減少傾向にあるような印象を受けます。また近年悪性黒色腫がクローズアップされる狭間で注目度が低下しているようにも思いますが、侮りがたい悪性腫瘍です。その他附属器系の悪性腫瘍も多種ありますが、この辺はそれぞれの先生の眼力に期待したいと存じます。

暑い夏を乗り切って実りの秋の季節を迎えたいものです。

（大塚藤男）

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第59巻 第9号 8月号 2017年8月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 雑誌部 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY**＜（社）出版者著作権管理機構 委託出版物＞
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。